

下町河川 Tomorrow

東京都の江東内部河川流域連絡会の情報紙（会議録）

平成 21 年 10 月 15 日（木）

第 35 回（第 6 期第 1 回）江東内部河川流域連絡会を開催



第 6 期の流域連絡会委員



会議の様子

- ・「第 35 回（第 6 期第 1 回）江東内部河川流域連絡会」を、午後 2 時から午後 4 時 30 分の約 2 時間半、東京都第五建設事務所・江東治水事務所 1 階会議室にて開催しました。
- ・都民委員 11 名と行政委員 9 名等が参加しました。 名簿は 6 ページ
- ・はじめに、各委員の自己紹介と座長の選出が行われました。そして、設置要綱・運営についての説明、行政委員からの情報提供、都民委員からの情報提供を行い、次いで、意見交換を行いました。

流域連絡会の目的と設置

江東内部河川を「人々に親しまれ、くらしのなかに生きる川」とするためには、都民と行政が共通認識に基づき協働・連携して川づくりを進めていくことが重要である。

そこで、流域の住民、河川に関心を持ち活動している団体、区及び都が河川について、情報や意見交換等を行うことを目的として、江東内部河川流域連絡会を設置した。

江東内部河川流域連絡会の設置要綱及び運営要領について事務局より説明があり、了承が得られた。

江東内部河川流域連絡会の設置要綱に基づき、座長として、東京都江東治水事務所内部河川工事課長 西村行正委員を選出し、委員の皆様にご了承を頂いた。

自己紹介及び川づくりへの意見、提案等

20 数年間墨田区立中学校のボート部の顧問等をしている。この間川の整備が進んでいるが、今後の横十間川の整備によりボート競技がどのような形で展開できるか考えていきたい。また、ボートを使って、川の駅伝を行いたい。

今後整備の重点が小名木川から横十間川へと進んでいくと言うことで非常に興味がある。

第 5 期から話している小名木川の整備テーマについて、今期は目途をつけたい。

流連を契機に設立した NPO（江東区の水辺に親しむ会）も 10 年目を迎える。活動を通じて、隣接する墨田区や江戸川区との連携が非常に重要であると感じるようになった。どのように連携していけばよいのか、川をどのようにいいものにしていけばよいのか、皆さんと考えていきたい。

和船友の会は設立して 15 年目となる。行政との情報交換と連携、和船製造技術の継承、船による地域の活性化等意義深いものがあると思う。これからも様々な和船の活用についてご指導いただきたい。

旧中川では台風時の水の濁りや臭いなどがどのように改善されるか、考えていきたい。旧中川がコンクリートの護岸から土堤になり、散歩する人、犬をつれて歩く人などが増えた。東京の川の中でも非常に数少ない環境だと思い、もっと PR できればと思う。

旧中川の灯籠流しは昨年 10 周年を迎えた。皆さんも是非参加して欲しい。

【所長あいさつ】(概要)



・江東内部地域では、他の土地から移転されてきた方が多くなっており、意外と地域の脆弱性が理解されていない。事務所もイベント等を通じて PR に努めているが、流域連絡会の皆さんのお力もお借りして今後とも周知していきたい。

・河川の整備は台風、大地震対策を一義に考えるばかりでなく、日常の都市の中の貴重な潤い空間を創出していく役割も担っている。

- ・旧中川は平成 22 年度までに整備が概ね完了する。その後は小名木川や北十間川に整備の重点が移る。このような非常に大事な 2 年間であり、流域連絡会の方々の貴重な意見は今後の整備に反映させていきたいと思っている。

行政委員等からの情報提供

江東内部河川の整備事業

東京の低地は今の荒川や中川、江戸川などが運んできた土砂が堆積してできた場所で、もともと土地が低く、地盤も軟らかい土地である。このうち、隅田川と荒川に挟まれた江東三角地帯では大半が満潮面以下となっている。このことから、荒川と隅田川、港湾区域を外郭堤防で囲み高潮や洪水への安全性を確保している。

しかし、内部河川では地盤沈下に伴いたび重なる護岸のかさ上げを行った結果、大地震に対して極めて危険な状況になった。

そこで、江東三角地帯を概ね東西に二分し、地盤高が特に低い東側地域の河川は、平常水位を低下する水位低下と河道整備を実施し、比較的地盤高が高い西側地域の河川は、耐震護岸で整備を進めている。

各区の事業紹介

【墨田区】

スカイツリー建設に併せて、北十間川水辺空間整備事業を行っている。平成 21 年度、東京都による基盤整備を受けて、水辺空間整備（修景整備）、人道橋整備を平成 23 年 12 月頃までに行う予定である。

また、北十間川の水質浄化のため、フロート式の木炭浄化施設を設け、その中央部に歩道を確保する、浄化施設兼用河川横断施設を整備する。

旧中川では堤防上に桜を植栽したことを契機に地元 5 町会にて「中川桜愛護会」が出来、維持管理活動をしている。（ビデオ上映）

【江東区】

江東区では、平成 21 年度に橋梁の耐震補強工事等が 3 橋、越中島川浚渫工事、塩の道植栽工事を予定している。

【江戸川区】

江戸川区では、旧中川河川敷に桜の植栽（20 本）と街路灯設置（4 基）を予定している。

東京都公園協会の河川関連事業

東京都公園協会では、水上バスを運航している。全部で 6 コースあり、両国・お台場クルーズコースが定期便的に運航している。

水辺に関心のある方々を対象にして、主として技術的な視点からの専門家による講演と、水上バスなどからの現地での解説を組み合わせた「テクニカルツアー」を毎年実施している。今年初めて、扇橋閘門にある防災船着場を開放した。時期は 8 月・9 月の 7 日間（水曜日が 2 日、土曜日が 5 日）であった。防災船着場の利用者が 156 名、船着場以外の施設見学者が 84 名の合計 240 名の利用があった。

上記以外にも、隅田川のテラス管理や市民らによる花壇管理の支援等を行っている。

都民委員からの情報提供

川の駅伝を始めよう

- ・横十間川（墨田区漕艇庫）、旧中川（江戸川区艇庫）、北十間川に川の駅を設置し、定時に各駅からボートを同時にスタートし、時計回りに、3区にまたがる、4つの河川（横十間川、小名木川、旧中川、北十間川）を漕ぐ。3周し、出発地の川の駅に最初に到着したチームを優勝とする。各川の駅から出発するチームは各区が応援する。このような川の駅伝を東京スカイツリーが開業する2012年に開催したい。



和船友の会

- ・横十間川親水公園にて、和船の技術伝承を目的とする「和船友の会」が和船6艘を週1回、ボランティア操船している。現在、会員は59名いるが毎週27～28名は必ず操船に来ている。課題としては、和船を造る人がいないこと、週に何回か操船を実施するようになると船頭が足りないこともあると思う。

江戸川区ボート協会

- ・旧中川の平成橋から江東新橋の辺りを主な水域として、手こぎのボートにより活動している。時々、北十間川や小名木川へもこぎ出している。隅田川での早慶レガッタやウォーターフェアでレースをしている。また、最近は新中川のイベントにも参加している。
- ・河川で治水対策の工事をして川を見ることがないとイメージがわからない。そこで地域を巻き込んだ河川の活用、水面の有効活用が重要になると思う。ボートは乗る人ばかりでなく、見ている人にも共感を与える。流域連絡会でも水面から街を見るという視点で参加していきたい。

旧中川灯籠流し実行委員会

- ・今年11年目を迎え、約4千人が参加し、約1,500個の灯籠が流れているのではないかとと思う。今後とも末永く続けていきたいと思う。

江東区の水辺に親しむ会

- ・会の活動では防災が非常に重要なテーマである。そこで、川を使った防災訓練を実施した。江東区ではマンションと水辺はキーワードになる。防災訓練ではマンションの理事に集まって頂いたが、川のことを認識していなかったため、川を使った災害対策に驚いていた。護岸の柵には扉があるが、船への乗り降りや物資の受け渡しを考えると実際には段差がある。こ

のようなことが河川整備では考えていくべき。

- ・「お江戸深川桜まつり」では、会も共催という形で参加している。広域避難場所である東京海洋大学から船を出してもらい、来訪者に避難訓練を想定して船に乗ってもらっている。
- ・毎年渡良瀬遊水池までバスに乗り堤防の草刈り等を行っている。昭和 22 年のカスリーン台風を教訓に、小山市の方々の堤防管理への感謝の思いで続けている。小山市の市制 55 周年の記念事業「思川舟運の歴史を尋ねて」では、救援物資をもって船で小山から江東区まで 2 日間かけて尋ねてくれるイベントも 10 月にあった。
- ・毎年 9 月に行う水彩フェスティバルでは、親水公園の一部をステージに見立てて活用した。水辺の使い方として一つのいい提案になったかと思う。

小名木川ベニス計画の会

- ・魚の住む小名木川を目指して、他の河川で行っていることを聞きに歩いている。小名木川に一番合った生物を発生するようなことを見つけて実験をやろうと思っている。
- ・小名木川の堤防にペイントをやろうということを提唱している。

意見交換

都民委員 行政委員

和船は親水公園内で実施しているが、小名木川に出て川の中で操船できないこと、広く言うと、河川が整備された中で和船がどのように地域振興になるか、河川のレジャー的な活用の仕方といった点が課題ではないか。

個人的見解だが、今後小名木川の整備が完了する。クローバー橋付近のように川幅が広い地区もあるので、予め小名木川で和船を係留しておくことも方法の一つとして考えられるのではないか。区との協議も含めて今後検討していければと思う。

旧中川はなぜこの地区だけ「旧」がつくのか。地元では他に名称に変えられないかという話が出ている。

河川の名称は河川法で決まっており、簡単には変えられない。仮に変えらるとなると地域での合意が必要となる。

旧中川が一級河川だと知らない人も多い。一級河川と二級河川の違いや整備レベルの違いなどがわかるような資料があると良い。

資料は今後用意する。簡単に説明すると、荒川等の一級河川に繋がる河川は全て一級河川である。呑川や目黒川のように都内に水源があり直接海へ入る河川は二級河川である。

橋の数は江東区が一番多いのか。橋に橋梁名が記載されていると良い。

橋梁と言うことでは江東区が一番多いのではないか。

小名木川にはかつて江東区の水バスを係留しておく箇所があった。あの場所は今後どのように活用するのか。

係留してあった場所については川幅を広げてあるため、生物の生息空間としてはどうかと考えているが、詳細は決まっていない。

流域連絡会の今後の予定

次回は12月か1月に現地見学会を予定しています。

江東内部河川流域連絡会・委員名簿

		住所・団体名	氏名
都民委員	個人	墨田区(区内在勤)	正岡 久武
		江東区	黒木 正幸
		江東区	菊地 進一
		江東区	須永 俣子
		江戸川区	山内 久二
		江戸川区	池上 郁夫
		江戸川区	吉田 誠一
		江戸川区	高橋 政宣
		江戸川区	渡辺 秀郎
	団体	江東区 江東区和船友の会	三好 寿雄
江戸川区 旧中川灯籠流し実行委員会		江頭 正恭	
		所属・職名	氏名
行政委員	墨田区都市整備部道路公園課長		斎藤 雄吉
	江東区土木部水辺と緑の課長		荒木 猛男
	江戸川区土木部計画課長		立原 直正
	東京都環境局自然環境部水環境課長		仁科 彰則
	東京都下水道局東部下水道事務所ポンプ施設課長		菱谷 和信
	財団法人 東京都公園協会水辺事業課長		東山 正行
	東京都建設局河川部河川管理制度担当副参事		植村 敦子
	東京都建設局河川部計画課長		東野 寛
	東京都建設局第五建設事務所管理課長		青木 正
	東京都建設局江東治水事務所内部河川工事課長		西村 行正
東京都建設局江東治水事務所水門管理課長		北島 義文	

座長

連絡先：江東内部河川流域連絡会事務局（東京都江東治水事務所内部河川工事課内）

担当：松本、永井

TEL：03-3692-4945（直通） FAX 03-3696-6499

Email-address：S0200225@section.metro.tokyo.jp